

タケダ・ウェルビーイング・プログラム 2021 成果報告レポート

助成番号 21-1-2

プロジェクト名 小児病棟でのクリニックラウンオンラインイベント
のプログラム開発
団体名 認定特定非営利活動法人日本クリニックラウン協会
所在地 大阪府
助成額 200万円
設立年 2005年
URL <https://www.clinicdowns.jp/>



（団体について）

当協会は、「すべてのこどもにこども時間を」を合言葉に、クリニックラウン(臨床道化師)を小児病棟に派遣し、入院しているこどもたちが、こども本来の生きる力を取り戻し、笑顔になれる環境をつくるために2005年から活動しています。

（助成による活動と成果）

小児病棟では COVID-19 の感染予防の為、家族との面会制限、プレイルームの使用制限・イベントの中止など、こども同士の交流や遊びの機会が制限されています。そこで、「小児病棟でのオンラインイベントのプログラム開発」を実施しました。

COVID-19 の影響を受け、入院中のこどもたちの抱えている課題や療養環境などがどのような状況にあるのか、現場のスタッフにヒアリングを行い、病棟スタッフと協力し、プログラム開発に活かすことができました。5 病院に協力していただき、「夏祭り」「秋祭り」「ハロウィン」「クリスマス」「節分」「宝探し（常時開催）」の 6 つの小児病棟でのオンラインイベントのプログラム開発を行うことができ、模擬実施として、計 9 回プログラムを実施。計 100 人のこどもたちと関わることができました。行動制限をうけている長期療養中のこどもたちに、遊びの機会を提供し、こどもたちの心が動く瞬間やコミュニケーション、感情表出や表現の機会をつくり、成長や発達を支えることができました。

2022 年 4 月に病気や障がいをかかえるこどもやきょうだい家族のためのイベント情報を届ける広報ボランティア「こども時間案内人」を立ち上げることができ、フェイスブック・インスタグラム・ツイッターでの情報発信をおこなうことができました。

（残された課題、新たな課題）

助成活動を通して気づいたこと・今後の課題は、①スタッフや家族は、こどもたちのために、「外部との交流の機会・コミュニケーション・体や心をうごかす機会・感情を出せる機会・こども同士の交流」を求めている。②大人数が一斉に参加するオンラインイベントは、小児病棟のマンパワー不足・感染対策などから、現時点では難しい。③小児病棟で自由に使用できる Web 環境やオンラインの活用状況は病院ごとに異なる。④病院の状況や要望が異なるため、事例をあげながら、その病院に合わせたオンラインプログラムを作っていくことが必要。⑤長期化するコロナ禍、こどもたちを支える大人が疲弊しており、病棟スタッフや家族が、こどもたちのために何かできたという達成感や一緒に楽

しむことがストレス軽減につながる。⑥オンラインイベントだからこそつながりや一体感を感じる工夫が大切。⑦小児病棟のボランティアグループの活動の機会が減少（こどもたちのあそびの機会の減少）。⑧入院中のこどもたちの支援団体情報や参加可能なオンラインイベント情報の検索が困難。⑨オンラインでのイベント実施の導入へ消極的な病院が多い。⑩スタッフや家族の「苦手・わからない」「負担が増える」という部分を「楽しい」「簡単」「いろいろな経験ができる」とイメージを変えることが、長期療養中のこどもたちの可能性を増やすことにつながる。

今後は、上記の気づきを活かしながら、「宝探し」など開発したプログラムを通して、こどもたちの心が動く瞬間やコミュニケーション、感情表出や表現の機会をつくり、成長や発達を支え、こどもたち・家族・病棟スタッフのストレス緩和を目指したいです。

2021年度Web訪問を実施した病院は17病院。2020年の10病院からは増加していますが、導入は進んでいません。今後は開発したプログラムをより多くの病院で実践できるような仕組みを作り、いろいろな人が長期療養中のこどもたちを応援しているということ、こどもたちや家族、病棟スタッフに伝えていきたいです。

今回の助成でご支援いただき、長期療養中のこどもやそのきょうだい、家族のためのイベント情報を届けるボランティア、「#こども時間案内人」を立ち上げることができました。今後は、どのように多くの人に情報を届けていくのか拡散方法を検討し、継続可能な体制をつくっていききたいです。また、小児病棟のスタッフからも期待の声があり、こういった情報を小児病棟で働くスタッフにも周知することの必要性を感じています。直接的に情報を届けるだけではなく、医療福祉関係者への周知方法も今後模索していききたいです。

（活動の背景・社会的課題）（団体からのメッセージ）

コロナ禍、ほとんど緩まない面会制限下でがんばり続けるこどもたちに笑顔届けたい！

世の中では徐々にコロナ対策は緩和されつつありますが、ほとんどの小児病棟ではこどもたちの安全のために面会制限が継続されています。長期入院中のこどもたちがいる病棟では、外部との面会制限はほとんど緩んでおりません。小児病棟特有の季節のイベントやレクリエーション等、こどもたちの楽しい時間も制限を受けており、こどもたちが「こども時間」を取り戻すには、まだまだ困難な状況が続いています。

コロナ禍、さらなる行動制限をうけている長期療養中のこどもたちに、オンラインイベントを通して、遊びの機会を提供し、こどもたちの心が動く瞬間やコミュニケーション、感情表出や表現の機会をつくり、成長や発達を支えたいと病棟スタッフのみなさんと協力して小児病棟のオンラインプログラムを開発しました。今後はこのプログラムをきっかけに、小児病棟でのオンラインイベントの普及（オンラインへの抵抗感を減らす）を目指し、こどもたちがさまざまな経験ができる機会を作っていきたいと思っています。

また今後は、オンラインイベントで使用するワークキットを作成するボランティア活動をたちあげるなどボランティアとして参加できる機会をたくさんつくり、活躍の場が広がることで、長期療養中のこどもたちへの理解を深め、応援したいという想いを持った応援団を増やしていきたいです。そして、コロナ禍でがんばっているこどもたちや家族、病棟スタッフにたくさんの方が応援しているということ伝えていきたいです。

【#こども時間案内人】は、長期療養中のこどもやそのきょうだい、家族のためのイベント情報を届けるボランティア。さまざまな支援団体のイベント情報を【#こども時間案内人】のSNSなどで

発信し、長期療養中のこどもやきょうだい・家族に役立つ遊びと学びの情報を集約的に届けることを目指します。 https://www.clinicdowns.jp/03_kodomojikan.html

入院中のこどもの家族から、「入院・こども・遊び」と検索しても、あそびの情報が見つからないという声を聞き、何とかしたいと思い、このプロジェクトを立ちあげました。長期療養中のこどもやそのきょうだい、家族を支援している団体と協力し、たくさんの情報を届けていきたいと考えていますので、是非情報の拡散に協力をお願いします。

- こども時間案内人 フェイスブック <https://www.facebook.com/kodomojikanguide>
- こども時間案内人 Instagram <https://www.instagram.com/kodomojikanguide/>
- こども時間案内人 ツイッター <https://twitter.com/kodomojikanguid>

以上